

経営において知財を活かす取り組み

日本弁理士会では経営デザインシートに関するワーキンググループ（経営DSWG）を設立し、弁理士が経営デザインシートを活用する道筋を提示する検討を行ってきました。実際に経営デザインシートを作成し、事例の検討を通じた経営デザインシートの活用、ひいては経営において知財を如何に認識し、構築、活用するかを検討を行っています。

平成30年度の取り組みでは、対象企業に過度の負担にならないように配慮し、次のような手順で経営デザインシートの作成を行いました。

- ①対象企業（社長）に対して経営デザインシートの作成の趣旨説明
- ②対象企業（社長）へのヒアリング
- ③対象企業からの経営・事業に関する情報の入手
- ④上記②③を踏まえ、弁理士が第三者の視点から経営デザインシート案を作成
- ⑤対象企業にて、上記④の案を確認し、適宜修正を行い、内容確定
- ⑥出来上がった経営デザインシートを関係各所に適宜開示して活用

経営デザインシートを活用した感想・効果

- 最初から知財視点に拘泥するのではなく、まずは経営視点で知財を捉えることができ、経営における知財の有用性を改めて考えさせてくれるのにとっても有益であった。
- 経営課題等を共有することで、対象企業の経営者とのコミュニケーションを円滑に行うのにとっても効果的であった。
- 経営レベルとの関係で、今後の具体的な活動の方向性を関係者間で、認識、共有することができるのにも有益であった。

支援対象先 1：株式会社山翠舎

経営デザインシートを活用した感想・効果

- 経営における知財の位置付け、優先順位等を整理、確認するのに有益であった。
- 自社のことを分かりやすく見える化できる資料であるので、社内、業者間等でコミュニケーションし、次の事業展開を議論するための共通の土俵として、経営デザインシートは非常に有益なツールであると感じた。
- 自社にとっての同志や共感を獲得するきっかけとなったり、自社のことをより知りたい人、ずれが無い人が集まってくるツールになりえる期待感がある。

支援対象先 2：株式会社Hacobu

経営デザインシートを活用した感想・効果

- 経営における知財の位置付け、優先順位等を整理、確認するのに有益であった
- 対象企業における経営レベルでの課題等を共有することができ、対象企業の経営者と経営における知財の活用等についてコミュニケーションするのに効果的であった
- 次の事業展開を議論するための共通の土俵として、経営デザインシートは非常に有益なツールであると感じた